

平成28年度

第61回 長野県中学校連合教科研究会

音楽科

目次

| | |
|-------------------------|-----|
| I 研究テーマ | 2 |
| II 趣旨 | 2 |
| III 参加校テーマ一覧と参加者名, 指導者名 | 2～3 |
| IV 研究問題と協議内容 | 3～6 |
| V 本年度の研究の反省と来年度の方向 | 7 |
| VI あとがき | 8 |

I 研究テーマ

「生徒自ら音楽活動の楽しさを体験し、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育む支援はどうあったらよいか」

II 趣旨

音楽科の学習指導要領ではつける力が〔共通事項〕として明確に示され、各題材で指導する〔共通事項〕をどのように指導していくかの研究が求められている。同じ題材でもどのように教材化し展開するかという視点で、各校・各先生方の研究実践から学び合い考えていきたい。生徒の実態と照らし合わせた教材研究、題材展開、そこから見られた生徒の学びの姿の考察を明確にしていくことで、自ら音楽活動の楽しさを体験し、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てる支援のあり方が見えてくるものとする。

III 参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名

【第1分科会】

- ・ 指導者 中信教育事務所主任指導主事 牛越 雅紀先生
- ・ 司会者 松本市立明善中学校 塚田 理恵先生
- ・ 記録者 飯田市立高陵中学校 会津 沙紀先生
- ・ 世話係 信州大学教育学部附属長野中学校 渡邊枝里香先生

| 学校名 | 研究の要旨(発表順) |
|-------------------|--|
| 北御牧中学校 (鑑賞領域) | 鑑賞授業の学びから考えること |
| 緑ヶ丘中学校 (鑑賞領域) | 生徒が音楽のよさや表現する楽しさを感じ、学ぶ意欲を高めていける指導はどうあったらよいか |
| 原中学校 (器楽領域) | 仲間とともに曲のよさを生かした音楽表現を工夫し、高めていく指導はどうあったらよいか。 |
| 城南中学校 (器楽領域) | 自己の思いと音楽を形づくっている要素とをかかわらせて表現する力を高める指導のあり方 |
| 高陵中学校 (歌唱領域) | 他パートとのかかわりを意識しながら表現の工夫をする力を高めるための指導はどうあったらよいか |
| 会田中学校 (歌唱領域) | 楽曲のもつよさを感じ取り、多様な音楽の要素を生かした表現をすることができる指導のあり方 |
| 明善中学校 (歌唱領域) | 音楽の楽しさを感じとり、仲間とともに生き生きと表現できる生徒の育成 ～言語活動を取り入れた合唱活動～ |
| 附属長野中学校 (歌唱領域) | 表したいイメージを、工夫して歌い表す力を高める指導のあり方 |

【第2分科会】

- ・ 指導者 長野県総合教育センター専門主事 小町谷 聖先生
- ・ 司会者 松本市立旭町中学校 山崎 啓先生
- ・ 記録者 岡谷市立岡谷北部中学校 山本 怜加先生
- ・ 世話係 信州大学教育学部附属松本中学校 五味 誠先生

| 学校名 | 研究の要旨(発表順) |
|-------------------|---|
| 売木中学校 (鑑賞領域) | 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きによって生み出される特質や雰囲気を感じ取る能力を高める指導はどうあったらよいか。 |
| 大町第一中学校 (鑑賞領域) | 楽曲のよさや美しさを感じ取り、工夫して表現する ～「音楽」と「自分」と「仲間」の対話より～ |

| | |
|-------------------|--|
| 岡谷北部中学校 (鑑賞領域) | 鑑賞授業における知覚と感受について |
| 信州新町中学校 (鑑賞) | 生徒の心が動く授業 |
| 附属松本中学校 (創作領域) | 音楽の魅力に触れ、友とのつながりを深めながら、表現する楽しさを味わう音楽の学習 |
| 箕輪中学校 (歌唱領域) | 生徒が楽曲からとらえたことを伝え合い、主体的に音楽表現を追求していくための指導はどうあったらよいか |
| 大桑中学校 (歌唱領域) | 生徒が生き生きと意見を出し合うペア・グループ活動 |
| 附属長野中学校 (歌唱領域) | 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きによって生み出される特徴や雰囲気を感じ取る能力を高める指導はどうあったらよいか |

IV 研究問題と協議内容

【第1分科会記録】

討議題1 鑑賞領域における実践事例より

| | |
|--------|---|
| 北御牧中学校 | 鑑賞授業の学びから考えること |
| 緑ヶ丘中学校 | 生徒が音楽のよさや表現する楽しさを感じ、学ぶ意欲を高めていける指導はどうあったらよいか |

<討議の内容>

- ・音楽の様子(要素)とイメージをどうつなげるかが課題。また、生徒はこの2つを混同してしまっているが、どうしていったらよいか。
- ・グループ活動を取り入れたり、付せんを使ってクイズ形式で音楽に合うソネットを当てたりするなどの活動を行うと良いのはないか。
- ・どの要素を切り口にすると生徒が興味を持ちやすいか考えると良い。例) 伴奏, リズム, 調性など

<牛越先生のご指導>

- ・音楽鑑賞と鑑賞の授業は違う。音楽鑑賞は「美しさやよさを自分なりに感じる」もの鑑賞の授業は、「音楽美を享受する素地を育てる」もの。従って、全員が聴き取れる内容、評価できる内容にする必要がある。
- ・「つける力」を明確にする。特徴を感じ取る力を育てるために、教え込むのではなく、「聴く」体験を重視する。そのために(図1)にある5つのことを意識して授業を行うと良い。
- ・子どもたちが感じたこと(感受)と気づいたこと・誰でもがわかること(知覚)について、教師が板書などで視覚的に整理をしていく必要がある。

【図1】

- 1 聴くめあてをもたせてから音楽を聴く。
- 2 1つの活動に対する聴くめあては1つにする。
- 3 比較聴取を効果的に取り入れる。
- 4 音や音楽を聴くこと通して確かめる。
- 5 重要なのは、発問である。

討議題2 器楽領域における実践事例より

| | |
|-------|--|
| 原中学校 | リコーダーアンサンブルにおいて、曲想にふさわしい表現の工夫を生徒が考えていく指導のあり方 |
| 木祖中学校 | 表現の工夫を生かしたリコーダー演奏～アーティキュレーションを生かして～ |

<討議の内容>

- ・曲に合ったイメージをもち、工夫していく授業を行うためには、教師側の提示の仕方と、始めにもたせ

るイメージが重要となる。

- ・演奏技能を高めていくために、タブレットの録画機能など、ICT機器を効果的に使うと良い。
- ・個人差を考慮しながら授業を進めていくために、学年の発達段階に応じて学習形態（個人、ペア、グループアンサンブル）を考えていく必要がある。

<牛越先生のご指導>

- ・器楽（特にリコーダー）の授業では、技能差が必ず出る。教師側は工夫の授業を行いたいと思っ

ても、子どもはそう思えないことが多い。そこで、観るポイントを変えて授業を行うと良い。

例：アンサンブルをする場合

指を正しく動かすだけでなく、相手を聴く要素を入れる。例えば、どこで一緒になり、どこでずれるか知る、タイミングを合わせるためにアンサンブルの中にどんな動きが入っているか学習する。

討議題3 創作領域における実践事例より

| | |
|-------|--|
| 城南中学校 | 表現したいイメージと音楽を形づくっている要素とをかくあらせて表現する力を高める指導のあり方 ～CUPS!!を用いて～ |
|-------|--|

<討議の内容>

- ・楽曲のイメージを大切に創作しようとした。グループでイメージを統一しようとしたが、同じテーマでも一人一人の考えが違うため、まとまらなかった。イメージから入るのは、難しいかもしれない。
- ・現代的な教材を使うと、楽しく、意欲は高まるが、ただ楽しいだけで終わらない題材設定をしたい。
- ・俳句を歌にする、という題材に挑戦したことがある。

<牛越先生のご指導>

- ・ついた力をきちんと評価をするために、グループ創作に偏らず個人でも創り出す必要がある。
 - ・創作には、①イメージがあって創るパターンと、②試していくうちにイメージが浮かんでくるパターンがある。生徒にとっては②のほうが取り組みやすいと考えられる。両方大切にしたい。
 - ・条件の提示方法を吟味する必要がある。
- 例：1分で／起承転結があるように／反復，変化，対象を使って／楽器の指定 など
- ・学習を充実させるためにリズム問答等で創作する素地を作ったり，教材を簡単にしたりすることが必要。

討議題3 歌唱領域における実践事例より

| | |
|---------|--|
| 会田中学校 | 楽曲のもつよさを感じ取り，多様な音楽の要素を生かした表現をすることができる指導のあり方 |
| 高陵中学校 | 他パートとのかかわりを意識しながら表現の工夫をする力を高めるための指導はどうあったらよいか |
| 明善中学校 | 音楽の楽しさを感じとり，仲間とともに生き生きと表現できる生徒の育成 ～言語活動を取り入れた合唱活動～ |
| 附属長野中学校 | 表したいイメージを，工夫して歌い表す力を高める指導のあり方 |

<討議の内容>

- ・ア・カペラの魅力の大きさについて。
- ・技能を追求する授業もあって必要。出したときに気持ち良いと感じるようになると，声を出すようになる。
- ・どういった切り口で取り組めば強弱が深まるのか。根拠を持つためにはどうしたらよいか。
- ・願う表現をするために必要な技能がないと願いに近づけず，表現を高めていくことは難しい。
- ・パート練習を子どもたちだけでスムーズに行えるようにするためにどうすればよいか。

<牛越先生のご指導>

- ・子どもが主体的になるためには、自信をもっている必要がある。
- ・音取りは宿題形式にすると良い。
- ・技能の習得については教師主導で効果的に進めることも考えられる。教師の出のバランスが大切。
- ・「テクスチャ」は中学生が音楽について深く学習するために良い音楽を形づくっている要素。曲全体の仕組みを理解する学習を組み合わせると良い。例えば、重ねている、ずらしている、違うメロディ（オブリガート）を入れているなど。これらがどのような効果をもたらしているか、考えてみると面白い。
- ・強弱は相対的なものなので、前後に変化をつけたい。曲全体を視野に入れて学習し、多彩な表現をする。
- ・音楽の変化を図示すると良い。音楽の仕組みを知ったうえで歌詞を見ると、気持ちの変化が良くわかる。

(文責者：飯田市立高陵中学校 会津沙紀)

【第2分科会記録】

討議題1 鑑賞領域における実践事例

| |
|--|
| 売木中学校：音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きによって生み出される特質や雰囲気を感じ取る能力を高める指導はどうあったらよいか |
| 大町第一中学校：楽曲のよさや美しさを感じ取り、工夫して表現する～「音楽」と「自分」と「仲間」の対話より～ |
| 信州新町中学校：生徒の心が動く授業 |
| 岡谷北部中学校：鑑賞授業における知覚と感受 |

- ・雰囲気と要素の関わりから曲の良さを考えていくことで、より音楽的に深められるようになった。
- ・複数の曲を同時に扱う時の曲の流し方が難しい。曲ごとに教室を分けたり、同じ教室の中で場所を分けてかけたり、生徒の実態や状況を判断して扱うことが大切。
- ・音楽でのグループ学習の扱いは難しい部分もあるが、個人追究で停滞していた生徒が仲間の意見を聴いて、自分の考えを深めることができる。
- ・「思考ツール」を使うことで知覚と感受をつなげて考えることができるようになってきた。エピソードから考えたり、音楽の要素と関わらせながら生徒の頭の中をスッキリさせて考えることができた。
- ・タブレットの使用は気軽に楽曲についての情報を集められるという点で便利だが、情報が多いので取捨選択が難しい。
- ・ICT機器を使用するための授業になってはいけない。ここぞ、という時に使用するのが効果的。
- ・創作の授業などでは、創る過程が残るのがICT機器の良さ。
- ・鑑賞の楽曲に入る時に様々な導入の仕方がある。楽曲によってもアプローチが変わる。

【小町谷先生のご指導】

- ・視点をもって鑑賞させることが大切。生徒は音楽の良さや美しさを「感じ取ること」は好きだが、それを言葉で表す活動は抵抗があるというアンケート結果がある。各校で「書く」ということに対して工夫されていることはとても良い。
- ・ICT機器は各学校で現状が異なっているので、今あるものでできる範囲で使用していく。創作ではつくったものは残していった方が良い。どこをどう変えたのか、フィードバックできるものは使っていた方が良い。
- ・知覚と感受は、本来は一体のものだが、学習する中で分けて考えていく必要がある。知覚・感受を分かることがゴールではなく、そこから音楽を味わって聴くことができることを大切にしたい。

討議題2 創作領域における実践事例

附属松本中学校：音楽の魅力に触れ、友とのつながりを深めながら、表現する楽しさを味わう音楽の学習

- ・1, 2, 3年での見通しをもってやっていくことが大切。
- ・タブレットはできたものがすぐに聴けて便利だった。返ってくるのが早い。
- ・創作で何を扱っていくのか、内容の精選が必要。
- ・創作をするときに良いサンプルがない。今回の附属松本中でのCMを扱ったのはとても良いアイデアだと思う。
- ・創作での評価の仕方。何をどう評価していけばよいのか。

【小町谷先生のご指導】

- ・基本的に教科書の内容をしっかりとやることが大切である。小中での創作の内容は重なっている部分もあるので、小学校である程度やっていけば中学でも見通しをもってできる。
- ・学習指導要領では旋律をつくることが示されている。「思いや意図をもって」音楽をつくることが求められる。「どの音を使っても良い」などと教師が示してしまうと、そこに生徒の思いや意図は全く無くなってしまうので、評価することが難しくなる。
- ・評価をすることを考えて、旋律は1人ずつつくった方がよい。2人以上の場合は、どこを工夫したのかきちんと言え等、どのくらいの思いをもっているか分かるようにしておきたい。また、できたものだけでなく創作の過程を大切にすること。

協議題3 歌唱領域における実践事例

箕輪中学校：生徒が楽曲からとらえたことを伝え合い、主体的に音楽表現を追求していくための指導はどうあったらよいか

大桑中学校：生徒が生き生きと意見を出し合うペア・グループ活動

附属長野中学校：表したいイメージを、工夫して歌い表す力を高める指導のあり方

- ・選曲では、担任の先生方の思いもあるが、学年内で同じレベルで歌いこんでいきたい。
→歌集から選曲をする方法。また、各クラスの雰囲気にあった曲や、パートバランス、音程がとれるかどうかなど考えていく必要がある。
- ・生徒の意欲に結びつく導入や指導が必要。「どうしてそうするとそうなるの？」という疑問を持つことで必要感をもって表現や発声の工夫に取り組める。
- ・技能を3観点（声の響く位置、高音・低音の口の開け方の違い、呼吸法）にしぼり、友達からアドバイスをもらったり歌い方を模倣してみることで、生徒の課題の達成につながった。

【小町谷先生のご指導】

- ・音楽の時間は35時間なので、音楽会で使う歌唱の授業は6時間程度でおさめるのが適切か。
→音楽会との兼ね合いもあるので、学校のマネジメントが必要。
- ・「歌いたい！」という意欲や思いをいっぱいにして曲に向かっていけるようにしたい。本人たちが歌いたい曲なら良いが、そうでない場合はその部分を教師側が埋めていくが必要になる。
- ・「こんな風にここを表現しよう（ねらい）」→グループ学習（思考・判断）→技術的な指導→「変わった！良い表現になった！」または「まだ〇〇の部分ができない…」→次時のねらいというようなサイクルで授業が回っていくようにしたい。
- ・技能の訓練ばかりの授業になることは良くない。表現（生徒たちが「こうしたい！」と思った表現）に必要な技能を身に着けられるようにしていく。また、発声や呼吸法などの技能を示した掲示が教室の中にあると、とても効果的。

（文責：岡谷市立丘岡谷北部中学校 山本 怜加）

V 本年度の反省と来年度の方向

◎本年度の反省

| 項 目 | 内 容 |
|---|---|
| ○本年度の研究テーマについて | <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞，歌唱，それぞれの分野において、先生方の研究から学ぶことが沢山あった。 ・音楽活動を楽しむこと，生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てることはとても大切だと思います。 ・器楽，歌唱，鑑賞，創作のどれかにテーマを決めてもらってもよい。 |
| ○研究の主な内容と研究の成果について | <ul style="list-style-type: none"> ・器楽の分野について教えていただきたい。 ・様々な学校の研究・成果が聞けてよかった。 ・具体的な授業づくりや他の先生方からお話を聞けるのはとても参考になります。 ・生徒のつぶやきを大切にし，言語活動にも力を入れていきたい。 |
| ○研究の方法や経過について | <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞について，「知覚と感受」について大切にしていきたい。 ・1つの領域だけ取り上げて深めてみるのもおもしろいと思います。 ・生徒が「わかる」「できる」授業を目指して工夫していきたい。 |
| ○研究会当日の運営について | <ul style="list-style-type: none"> ・先生方の日頃の悩み，課題が共通する内容で，とても参考になった。 ・中学生の皆さんに丁寧に対応していただいた。ありがとうございました。 ・違う分科会のレポートもいただけてよかった。持ち帰り，様々な発表を自分でも実践してみたいと思う。 |
| ○メールを利用した文書送付，レポート提出，研究集録等のWebページ掲載について | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート当日OKにさせていただき，助かった。 ・提出期限までにレポートを仕上げるのが難しいので，概要のみ事前にメールで送付するのはどうでしょうか。 ・丁寧に連絡をいただき，ありがたかった。 ・さそっていただき，ありがたかった。来年は知らせをいただいた時点で参加を検討したいので，強く推していただければ。 ・分かりやすくよかった。 ・メールでのやりとりで連絡が取れ，助かった。 |
| ○本年度運営全般について | <ul style="list-style-type: none"> ・和やかな雰囲気話しやすく，ありがたかった。 ・2学期文化祭後の授業の場合は締切に間に合わない。レポート提出は当日でよいような方向がよい。 |

◎来年度の方向

| | |
|------------|---|
| ○来年度の研究テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・本年度のものを継続でよい。(多数) ・生涯にわたって音楽を楽しむという本質的なところはお歳に引き続き大切にしていきたい。 ・新学習指導要領に少し関連したテーマ設定もいいと思う。 |
| ○来年度の研究の趣旨 | <ul style="list-style-type: none"> ・本年度と同様で。 |
| ○来年度の研究の方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・本年度と同様で。 |

VI あとがき

お忙しい時期に、県下各地から、33校、20名の先生方にお集まりいただき、日々の授業実践をもとに、生徒の学ぶ様子を通して、指導のあり方を熱心に討議していただき、本年も多大な成果を収めることができました。

事前から、会の進め方、討議題の内容等、懇切丁寧にご指導いただきながら一つ一つのレポートに対してご示唆をいただいた長野県教育委員会中信教育事務所主任指導主事 牛越雅紀先生、長野県総合教育センター専門主事 小町谷聖先生に心から感謝申し上げます。また、綿密な司会計画を立てていただき、討議を深めてくださった司会の塚田理恵先生、山崎啓先生、当日の記録及び研究集録のまとめに多くの時間を割いてご尽力いただきました記録の会津沙紀先生、山本怜加先生、心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、日々の実践をレポートにまとめ、熱心に協議に参加され、研究会を実りあるものにしてくださった参会の先生方、本当にありがとうございました。

来年度の研究会にも、ぜひたくさんの方のご参加をいただき、有意義な研究会になりますことを祈念申し上げ、まとめとさせていただきます。

音楽科委員長 五味 誠
副委員長 渡邊枝里香